

グループホーム なごみ・しろさぎ

洗濯や掃除、服薬の確認、生活費の使い方など、日常生活を送る上で必要な力をつけながら生活しています。

小松市北浅井町 123
(0761) 23-7232

就労支援センター つばさ

菓子・喫茶・厨房（日替わり弁当）の作業しており、また就職に向けてビジネスマナーなどの訓練の場所です。

小松市北浅井町 123
(0761) 23-7235

地域活動センター くろゆり

仲間と楽しんだり、1人でゆったりしたり、内職したり、悩みごと相談したり、利用の仕方はフリースタイルで

小松市不動島町 甲 22
(0761) 24-5739

能美地域活動センター はまかぜ

印刷・内職作業、施設外就労等、様々な作業があり、ご自分に合ったペースで作業をすることができます。

能美市中ノ江町 104-1
(0761) 58-0753

社会福祉法人

なごみの郷



相談支援センター なごみ・はまかぜ

障がいのある方、そのご家族への相談援助・情報提供や福祉サービスを利用するにあたっての調整等を行っています。

相談なごみ：なごみの郷内 (0761) 23-7238
相談はまかぜ：山口分場内 (0761) 48-7630

能美地域活動センター はまかぜ山口分場

週1回短い時間からでも利用できます。作業の内容も簡単な内職から体を使った作業まで幅広く仕事できます。

能美市山口町 木 17-1
(0761) 46-6160

地域活動支援センター ハレマ

障がいの有無に関わらずひきこもりがちの方がありのままの自分で過ごせる居場所です。

小松市不動島町 甲 21
(0761) 41-5757

のみワークポート りんく

就労に向かう様々な不安があり、生活が困窮している方に、生活・社会・就労自立の3段階で支援を行います。

能美市寺井町 中 45
生活支援ハウス 2 階
070-8800-0005

…居住支援 …就労支援 …日中活動支援 …就労準備支援 …相談支援

つばさの米粉シフォンケーキ

小松産コシヒカリ100%の米粉を使用したシフォンケーキを喫茶ウッディーにて150円で販売しています。「モチモチ食感」や「お米の風味」が感じられます。小麦粉を使っていないので、小麦アレルギーを持っている方も美味しく食べることが出来ます。是非ご利用ください。

●販売場所：喫茶ウッディー、夢や、小松市社会福祉協議会、能美市社会福祉協議会で販売しています。

詳しくは就労支援センターつばさ TEL0761-23-7235 までお問い合わせ下さい。



編集人：社会福祉法人 なごみの郷
連絡先：〒923-0851
石川県小松市北浅井町 123
TEL 0761-23-7232
FAX 0761-23-7284
発行人：北陸障害者定期刊行物協会
（富山市今泉 312）
定価：50円

ホームページ QR コード▶



HSK なごみ通信

No.72 2025. 4



ウェルカム
ハレ〜マ♪

ハレマイメージキャラクター（非公認） 桃園君子
はまかぜメンバー 木本久信

☆トピックス

- ひきこもりがちの方の居場所 **ハレマ OPEN!!**
- ハレマ記念開所講演会 石尾大輔さんインタビュー




社会福祉法人
なごみの郷

ハレマ

OPEN!!



日々の暮らしのハレマになーれ







◆ ハレマの建設には公益財団法人競輪・オートレース JKA 様に助成をいただきました。
この場をお借りして、心より感謝を申し上げます。

地域の居場所

「ハレマ」が完成しました！

ハレマのお問合せ・場所

電話：0761-41-5757

場所：小松市不動島町甲 21

開所日：月～金曜日10時～16時

※土日や夕方の開所日もあります。

「ハレマ」は生きづらさを抱えた方々の居場所です。

「居場所」とは、明確な目的無しで、居てもいい場所のことです。

これまで「くろゆり」をご利用いただいていた障がいをお持ちの方はもちろん、

障がいはお持ちでなくとも、なんらかの生きづらさを抱えて家にひきこもりがちに

なっている方もご利用いただけます。“好きなことをして過ごす”ハレマや隣接するくろゆりの

活動プログラムに参加する”仲間とお喋りをする”スタッフに相談する”などなど、その時々のお気持ちに

合わせて利用していただけます。暮らしにちょこっと晴れ間がのぞく、そんな居場所でありたいと思っています。

「みんなの問題 ひきこもり」

現在、日本でひきこもり状態にある方は、約146万人以上とされています。15歳から64歳までの50人に1人がひきこもっている計算になるそうです。ひきこもりは長期化していくにつれ、社会に出ることが難しくなる傾向がありますので、できるだけ早い段階から、ふさわしい対応をしていくことが大切です。

ひきこもりがちな方のご相談を受付けています。
ひとりで悩まずに
お話を聴かせてください。

相談支援センターなごみ

電話：0761-23-7238

場所：小松市北浅井町123

受付日：月～金曜日 9時～17時

（土日祝除く）※ご相談は無料

お問合せ

ハレマ開所式 記念講演

～ ハレマ開所式典記念講演の一部掲載 ～

能登半島地震を機にひきこもりから脱した石尾大輔さん

●プロフィール

珠洲市出身の44歳。中学校時代のいじめを機に統合失調症を発症。大学卒業後、社会に出た時期もあるが、通算10年ほどをひきこもり状態で過ごす。能登半島地震で被災したことをきっかけに、加賀市のいまこ親の会が運営するシェアハウスに移住。



- Q** 現在、被災を機に講演活動をされたり、新聞・テレビ等のメディアに取り上げられたりなど活躍をされています。この変化を自身はどう捉えられていますか？

A 昨年の地震から想像もしていなかった毎日を送っていますね。地震で家に住めなくなった時や、加賀のシェアハウスに引っ越す時は、不安でいっぱいでした。ですが、今は素晴らしい方達に囲まれて、毎日が本当に楽しいです。

Q 辛いひきこもり時代の自分に声を掛けることができるとしたら、どんな声掛けをしますか？

A いじめにあつた15歳の時の自分に、30年後は素晴らしい人達に囲まれた素晴らしい人生が待っているよと伝えたいです。今でもいじめの夢を見ることはありますが、現実の日々が楽しいので大丈夫です。

Q ひきこもりから脱するために必要なものは何だと思えますか？

A 脱したというところと違つ。こんな生き方があっても良いんじゃないかと自分自身を受け入れることができて初めて楽になりました。結果的に社会に出ているという感じ。いろいろな生き方をもつと認める社会になつていくと、みんなが楽に生きられるのではないかと思います。

Q 現在、ひきこもっている方や、そのご家族に伝えたいことはありますか？

A 良いことも悪いことも永遠には続きません。今が辛くてもずっと続かないことを信じて欲しいです。ひきこもりに対する社会の理解も少しずつ進んでいるし、いたずらにひきこもりから脱けだそう、就職しようなどと考えず、自分いじめをやめて、まずは自分の人生を楽しむこと。そこからだと思います。

震災体験を機に、人生を楽しみ始めた石尾さん。今、辛い状況にある方々に、石尾さんの声が届きますように。